令和8年度阿倍野区区政会議第1回福祉・健康づくり部会でのご意見と対応一覧

資料3-3

［分類］
①当年度（8年度）において対応
②9年度に対応予定
③9年度では対応できないが、今後引き続き検討
④その他

番号	年月	会議	意見内容（要約）（公表）	対応（回答）（公表）	分類
1	R8.8.3	第1回福祉・健康づくり部会	**【3-1①】新たな担い手を確保するために有効な広報手段や、行事などでの周知方法について** ・広報手段の1つとしてインスタグラムで情報発信したらどうか。若い人はインスタを活用している。区役所が発信するよりも外注して情報発信し、若者がインスタで拡散してくれればより多くの区民に情報発信できるのではないか。一方、お年寄りの方は町会でつながりをもっているのでそこで情報発信することがいいと思う。 ・区役所からの情報を得ているのは主に広報紙、他には昔ながらのコミュニティや、町会、老人クラブの会で情報を得る。PTAなどはSNSを使っている。 ・情報発信について行政が得意な分野ではないが、行政が情報発信すれば安心感はある。行政は地域が行事を開催する際に場所等の提供や、後援があれば安心できる。 ・地域で実施しているこども食堂で月１回たくさんの人が集まっている。食事をきっかけにコミュニティができるのではないか。 ・区はどのような取組をしているかの周知が大切。楽しいイベントを開催しイベントで情報発信してはどうか。 ・子ども食堂で子どもと話をしたい大学生もいる。地域でどういうプログラムがあるか周知したり、呼びかけの方法を工夫してはどうか。	情報発信の中でインスタグラムでの発信についてご意見をいただきました。区役所においても、区政情報の発信ツールの一つとしてインスタグラムを活用してます。乳幼児健診での周知などにより、この1年間でフォロワー数も150人程度増加しており、効果的な情報発信を引き続き行ってまいります。 外注による情報発信については、以前、区政会議でも魅力発信手段についてご意見いただき「あべのって」という団体を区民の方を中心につくっていただいて、区の魅力的な行事や地域の情報を発信していただいたこともあります。福祉分野についても、いただいたご意見を踏まえ、魅力的なイベントや団体の取組を情報発信していただけるよう、連携している団体に投げかけしてまいります。 また、こども食堂に限らず、地域で活動されている方々や学生に参加していただくことは有意義と考えます。区役所と区内の大学校と連携協定を結んでおりますので、地域の活動と学校などにつなげることもできます。そういった取組を通じて、新たな担い手の確保につなげてまいります。	①
2	R8.8.3	第1回福祉・健康づくり部会	**【3-2②】健康づくり活動を主体的に担う新たな人材を確保するためにはどのような取組が有効か】** ・心と体の健康。体は運動。みどり豊かな場所が心の健康につながるのでは。 ・おさんぽマップ、あべのウォークなどあり。若い方の参加を促すために、親子の会とかは。 ・30・40代ひきこもりを対象に、病気の怖さ、病気になったら、透析・アルコール依存症になったらどうなるかを、知らせるアプローチ。	心と体の健康はどちらも大事と考えており、体の健康にはウォーキングなどの運動が有効と考え、区民の方と協働であべのウォークを開催しています。 あべのウォークの魅力のひとつは、同じ道を一緒に歩きながら目に入るものを見て、「ああ、きれいやね」「今日は天気がいいね」等、何げないふだんの会話を知らない人とできる機会になっていることであり、心の健康にも十分寄与できている部分があります。 また、ウォーキングサポーターという区民の方と一緒に企画し、緑豊かな場所を目的地にする、そういった場所を歩くなど、ふだん歩いている都会の道だけではなく「緑のあるところ」も必ず取り入れられており、リフレッシュにもつながります。 親子で参加できれば参加する層が広がるのではないかというご意見については、参加者の安全を確保するための方法を確保しつつ、あべのウォークの中核として参加いただいているウォーキングサポーターとも手法について検討してまいります。 また、ひきこもりの方への支援として、大阪市こころの健康センターにおいて、電話やラインでの相談を受け付けています。また、区役所においても、こころとからだの健康に関する相談を受け付けています。30代、40代のひきこもりの方への病気などの啓発については、適切な形での啓発が必要と思いますので、相談対応などを通じてその人に合った適切な形での啓発を検討してまいります。	②